

いのちを守るための備えを

今年は、関東大震災の発生から100年の節目の年です。この地震は、東京・横浜を中心とする関東周辺に甚大な被害をもたらしました。今後発生するといわれている首都直下地震や南海トラフ巨大地震などに備えて、今、私たちは何ができるのでしょうか。

今月は、過去に発生した大地震の被災地へ救助隊として出向いた方のお話と、改めて確認しておきたい地震への備えを紹介します。



SDGsの関連アイコンを特集ページに標記しています

(写真提供は埼玉西部消防局。全て東日本大震災の様子)

今、あなたは何ができるのか

救助隊の視点で伝える、地震への備えの大切さ

今回お話を伺ったのは、市内在住で埼玉西部消防局・所沢東消防署の署長・片岡治さん。平成7年の阪神・淡路大震災、16年の新潟県中越地震、23年の東日本大震災において、災害派遣として被災地に出動されました。被災地で感じたこと、いつ起こるか分からない震災のために私たちができることなど、実体験を交えてお話いただきました。

救助隊として出向いた3つの現場

私は全ての現場で、要救助者や行方不明者の救出・捜索を中心に任務を行いました。阪神・淡路大震災では都市部を中心とした家屋の倒壊、新潟県中越地震は山間部における集落の孤立、東日本大震災は沿岸部での津波が主な被害で、どの災害も毛色が違います。今後、関東地方に被害が及ぶ大地震が発生した場合、山や海のない狭山市は、3つの震災の中では阪神・淡路大震災に近い被害が起こると考えられます。

まるで「戦後の焼け野原」

阪神・淡路大震災が発生した時は、全国的な消防の広域応援体制が確立されていませんでした。テレビを見て「すごいことが起きた」と思い、当時の旧所沢市消防本部単独の判断で、救助工作車を走らせ被災地へ向かうことに。この震災で倒壊した高速道路の手前からは、通行止め箇所を迂回して神戸市内へ向かいました。その時点ではそれほど被害があるようには見えませんでした。

した。

しかし、その後目にした神戸市内の様子はまるで「戦後の焼け野原」。一般家屋だけでなく、鉄筋コンクリート造のビルまでもが崩れ落ち、火災による黒煙もいくつか見えました。「自分たちに一体何ができるだろうか」と不安が襲ってきたことを今でも覚えています。

公的機関だけでは間に合わない

市役所の建物は倒れかけ、職員も混乱状態。住宅地図のコピーをもらい、自分たちの判断で検索救助活動を行いました。活動中も余震があり、至る所で徐々に建物が崩れていきました。発災直後は公的機関の救助が間に合わないことが考えられるため、自分たちで行動することができるとかが重要だと思っています。初期消火、応急手当、負傷者搬送など、やれることはたくさんあります。

住民の知恵が命をつなぐ

この震災では、救出活動のほとんどが住民同士によって行われたと聞いています。救助中、乗用車に載せているパンタ型のジャッキが家屋にいくつも残されていました。住民が知恵を絞っ



震災で曲がった線路

関東大震災から100年



倒壊した家屋を検索する様子



倒壊した建物内の検索活動



津波で崩れ、流された家屋

て救出した証です。また、避難所では新聞紙を体に巻いたり、フィルムラップを食器に巻いたりするなどの工夫が多く見られ、これらはこの震災で生まれた住民の知恵として現在も語り継がれています。想像もできないほどの甚大な被害があった中で、住民同士が声を掛け合い、助け合う姿が命をつないだと言っているでしょう。

**予想外のことが起こる、
だから事前の備えが大切**

阪神・淡路大震災を契機に、消防の全国的な広域応援体制や行政の整備体制が進んだことから、東日本大震災では避難所の開設や支援助物資などの搬入も早い時期から行われました。それでも津波の被害は予想以上で、災害は予測ができないものだと実感しました。地震のタイプや震源地によって、被害の大きさ・種類は大幅に変わります。どんな時でも、自分の命を自分で守る行動が第一。そのためにも、事前の備えが必要です。

たった一度の経験が、役に立つ

被災地では、大きな家具の下敷きになって命を落とした方を多く見ました。そのため、事前に

家具などを固定しておくことは有効です。また、防災訓練や救命講習などに参加して、疑似体験を積むことも大切。特に地域で行う訓練では、近所の人と顔見知りになることができます。震災時は、知っている人がいるだけで心強いものです。

そして何より大切なのが、さまざまな角度から「地震が発生したら…」という想定をしておくことです。どんなに備えても想定外の災害は起こるため、完璧な備えはありません。しかし、一度でも考えたこと・やったことは、いざというときに役立つ可能性があります。

緊急地震速報が鳴ったら行動を

緊急地震速報が鳴った時には、避難する行動を起こしてみましよう。ただ聞いているだけではなく、それが大震災であるかもしれないと考えて行動することが大切です。仮に小さな揺れだったとしても、訓練になったと思えたらそれが良いのです。

今、できる備えを

近年発生が懸念されている南海トラフ巨大地震や首都直下地震は、今後30年以内に発生する可能性が70%以上とも言われており、日本の広範囲で甚大な被害をもたらすことが想定されています。大切な命を地震災害から守るには、まずはあなた個人の行動が、そして家族、住民同士の絆が大切だと私は考えます。今、あなたができることは何かを考えた上で、家族や地域の方々とも話し合い、いざというときに備えておきましょう。私のこの話が、備えへの行動のきっかけになったら嬉しく思います。

もしもの備えがいのちを守る

備え1 災害リスクを確認！

立川断層帯を震源とする首都直下地震が発生した場合、狭山市では震度5強から6弱の揺れが想定されています。「狭山市防災ガイドブック」には、この地震の想定震度を記載した「ゆれやすさマップ」を掲載しています。お住いの地域の震度がどの程度になると想定されているか、確認しておきましょう。



災害リスクを確認した後は、地震が発生した時の行動を確認してみましょう。家の中で発生した場合は慌てて外に飛び出すと、家の壁や瓦が落ちてくる可能性があります！揺れが収まってから、なるべく広いところへ避難を。移動手段は徒歩を心掛けましょう。外へ避難するのが難しい場合は、大きな柱の近くや小さい部屋などに避難すると良いでしょう。



狭山市防災
ガイドブックはこちら

備え2 非常持出品・備蓄品を準備！

避難所の災害用備蓄品は、種類や数に限りがあります。いざというときに持ち出す「非常持出品」を事前に準備しておきましょう。

また、在宅避難の場合は、電気、水道、ガスが使えなくなるばかりでなく、物資が手に入りにくくなる可能性があります。避難生活が長期にわたることを想定し、日頃から食料や飲料水、携帯トイレなどの「備蓄品」も用意しておきましょう。



震災時は断水になる可能性があります。水は食事やトイレでも使用する、特に大事な生命線です。自分や家族の分を用意しておきましょう。

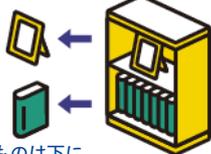


詳細はこちら

備え3 家具の転倒防止や配置の工夫！

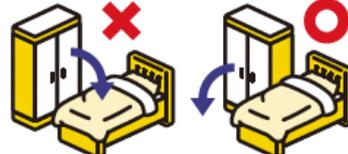
平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、死因の8割以上が住宅などの倒壊や家具の転倒による圧死とされています。倒れやすい家具がないか、家具の配置は大丈夫かなど自宅内を点検し、事前に対策をしましょう。

軽いものは上に



重いものは下に

重いものを下に、
軽いものを上に収納し、
家具を倒れにくくする。



寝る位置に家具が
倒れてこないように
家具の配置を工夫する。

(埼玉県「イツモ防災講座」配布資料より引用)



家具は倒れないように固定しましょう。家具の中身は重いものを下に入れるのが効果的。また、寝ている時に揺れが発生することを考えて、頭部に倒れる危険性のある家具は移動するなど、部屋のレイアウトを再考してみましょう。



埼玉県ホームページ

備え4 住宅の耐震性を確認！

市では、木造住宅を対象に、家屋に関する不安を一級建築士に無料で相談できる「わが家の耐震リフォーム相談」を行っています。万が一の地震に備えたさまざまな相談を受け付けています。お気軽にご相談ください。

問合せ 建築審査課へ ☎2946-8234



詳細はこちら

災害情報などの取得方法

いざというときに慌てることなく必要な情報を取得できるよう、日頃から準備しておきましょう。

市公式SNS

リアルタイムで情報を発信しています



狭山市LINE公式アカウント
ID:@citysayama

メール・メッセージ



▶メール配信サービス

事前に登録したメールアドレスに狭山市の防災行政無線情報、気象情報などが届きます



▶緊急速報メール(エリアメール)

気象庁が配信する緊急地震速報や、国や地方公共団体が配信する災害・避難情報が一斉に通知されます(登録不要)

▶Yahoo! 防災速報

アプリをダウンロードすると、市内で災害が発生する恐れがあるときや発生した場合に、避難情報や避難所開設情報などが配信されます



電話



▶防災行政無線

防災行政無線のスピーカーから緊急情報などが放送されます
放送内容は電話や市公式ホームページでも確認することができます

防災行政無線音声自動応答サービス ☎0120-81-3804
直近で放送した内容を聞くことができます



テレビ



▶テレビ埼玉「データ放送サービス」

インターネットが利用できない環境でも、緊急情報を文字で確認することができます

▶狭山ケーブルテレビ

市が災害対策本部などを設置した場合に、緊急テロップ(L字放送)で避難所の開設や災害の情報が放送されます



ウェブページ



▶狭山市気象観測サイト

狭山市の天気、気温、降水量や入間川と不老川の水位、発表されている注意報と警報を確認することができます



問合せ 危機管理課へ ☎2968-6527